

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2021年9月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2021年9月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:279、回収数:125、回収率:44.8%、回収期間:9月24日～10月6日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (7月～9月)	見通しDI (10月～12月)
合計(N=125)	12.0	65.4
行政・協会(N=48)	17.2	66.7
宿泊施設(N=25)	4.0	66.0
集客施設(N=4)	6.3	43.8
飲食・物販(N=9)	13.9	50.0
交通・代理店(N=20)	3.8	68.8
その他(N=19)	18.4	61.8

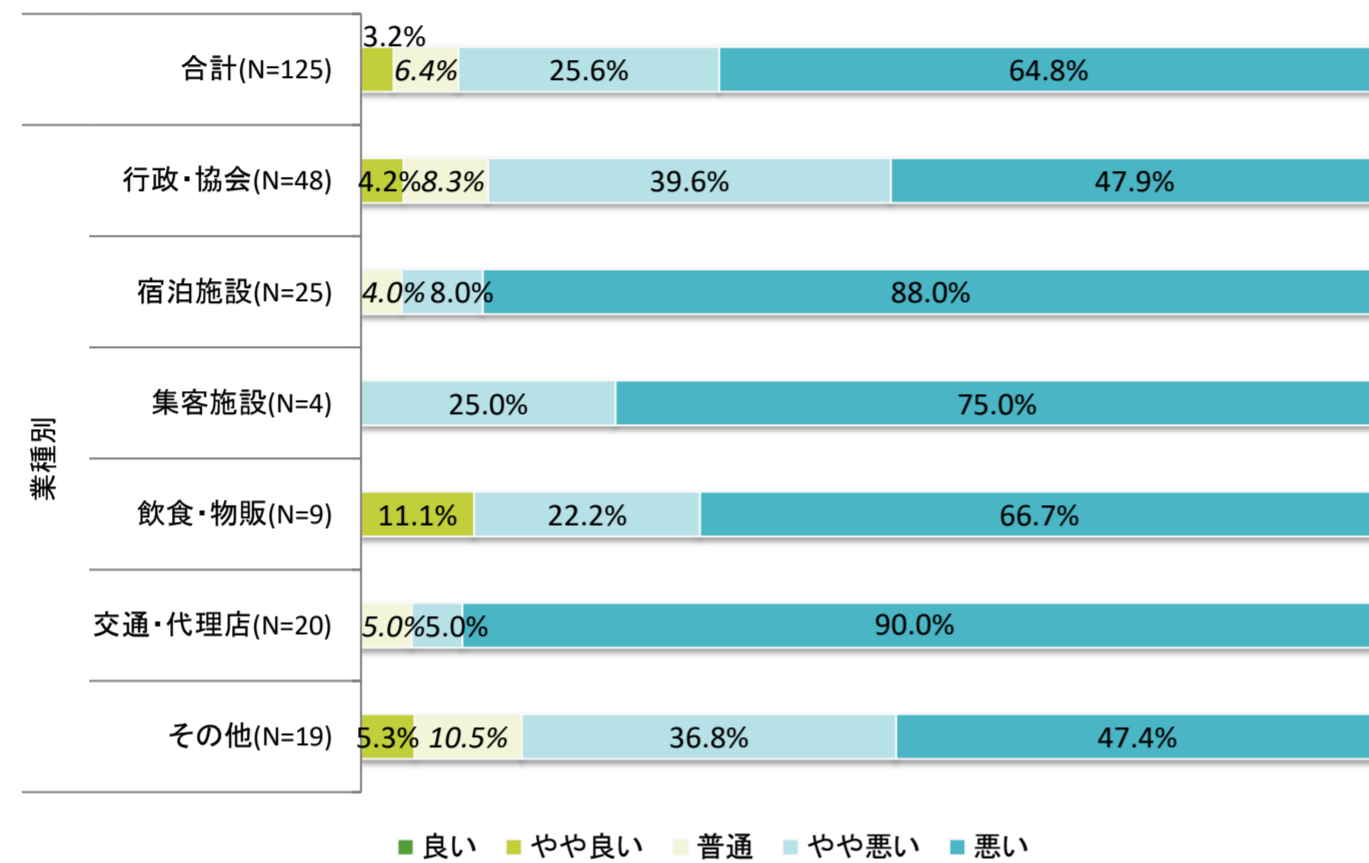
7～9月の熊本県の現状判断DIは12.0となった。多くの事業者等が現在の景況感を「悪い」もしくは「やや悪い」と感じており、新型コロナの第5波による影響が、集客施設や宿泊施設、交通・代理店など全般的に色濃くなっている。

また、見通しDIは65.4となった。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示し、10～12月期は現状より良くなるとの見通しであることがわかる。

※DIとは

同調査におけるDI(ディフュージョン・インデックス)は、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。

2. 7～9月期の動向、景況感 【現状判断DI】

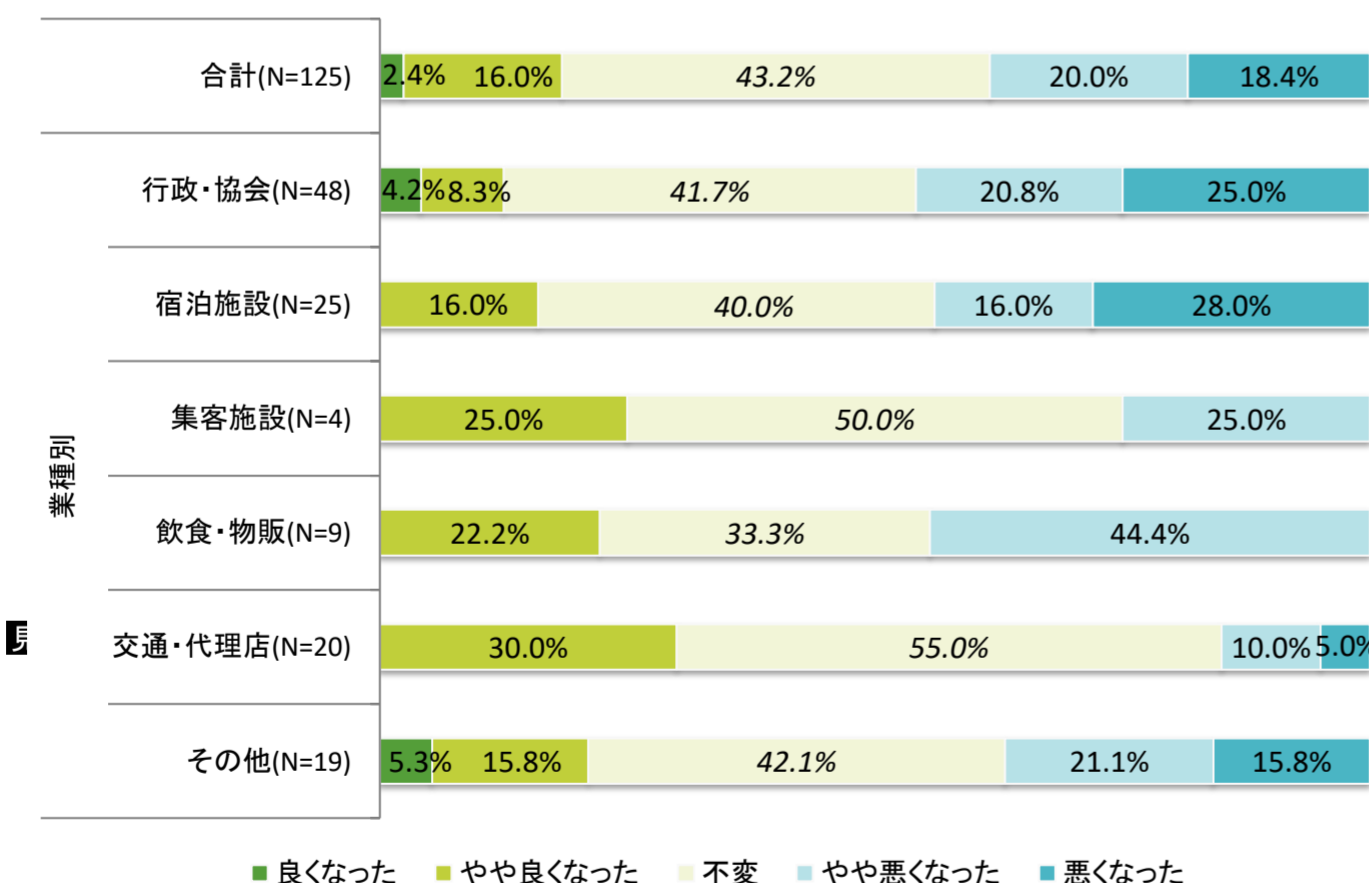


7～9月の景況感は、全体では「やや良い」が3.2%、「悪い」と「やや悪い」の合計は90.4%となっている。新型コロナの第5波に伴う緊急事態宣言等の影響が色濃い。

【コメントの抜粋】

- やや良い
休日・祝日の個人客の動きが戻ってきてつつある。(飲食・物販)
- 普通
7月から8月上旬は好調だったが、中旬以降異例の長雨や第5波の影響で大きく落ち込んだ。しかし、9月中旬から客足はかなり戻りつつある。(交通・代理店)
- やや悪い
熊本市中心部のホテルは極端に悪いが、熊本駅周辺や宇土市などのホテルはまだ工事需要が続いているためにそこまで悪くはない。(行政・協会)
- 悪い
教育案件以外の一般案件、個人旅行、企業出張等がまったく回復してこない。(交通・代理店)
県内及び全国のコロナ感染者が急激に増加したこと、8月の大雨・長雨。(宿泊施設)

3. 4～6月期に比べて7～9月の動向、景況感

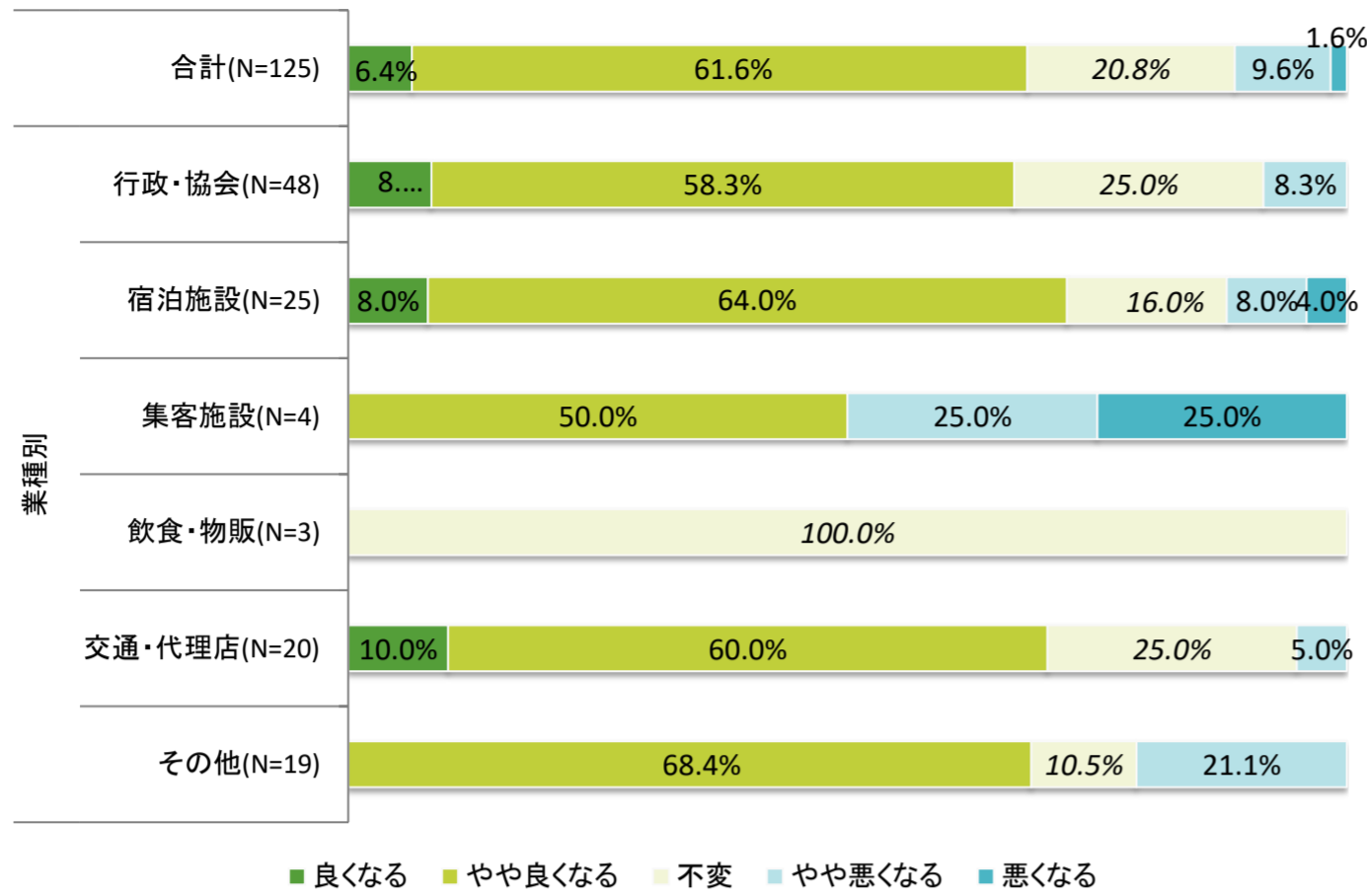


4～6月期に比べて7～9月の動向・景況感は、全体で「不変」が43.2%と最も回答が多かった。「良くなった」と「やや良くなった」の合計は18.4%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は38.4%となった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
夏が一番の稼ぎ時なので、季節的要因は大いに関係する。市の宿泊割引キャンペーン、くまもと再発見の旅等の影響で。(行政・協会)
- やや良くなった
7月、県の助成プランが大きく寄与している。(宿泊施設)
感染者数の減少に比例して、9月下旬より少しずつ予約が回復してきている。(飲食・物販)
- 不変
昨年10月以降は、ずっと景況は変わらない。緊急事態宣言やまん延防止が発令されては人が動かなくなり、解除されては少し動き出すという流れが続いている。(行政・協会)
- やや悪くなった
7月は回復の兆しがあったが、緊急事態宣言と蔓延防止発令で実績悪化(交通・代理店)
- 悪くなった
新型コロナ感染拡大による観光客減。(その他業種)
7月は若干良くなったが、8、9月で悪化。(飲食・物販)
- 悪くなった
福岡県の緊急事態宣言と熊本県のまん延防止等重点措置が発出されたため、人流の動きが止まった。(宿泊施設)

4. 今後、12月までの業況の見通し 【見通しDI】



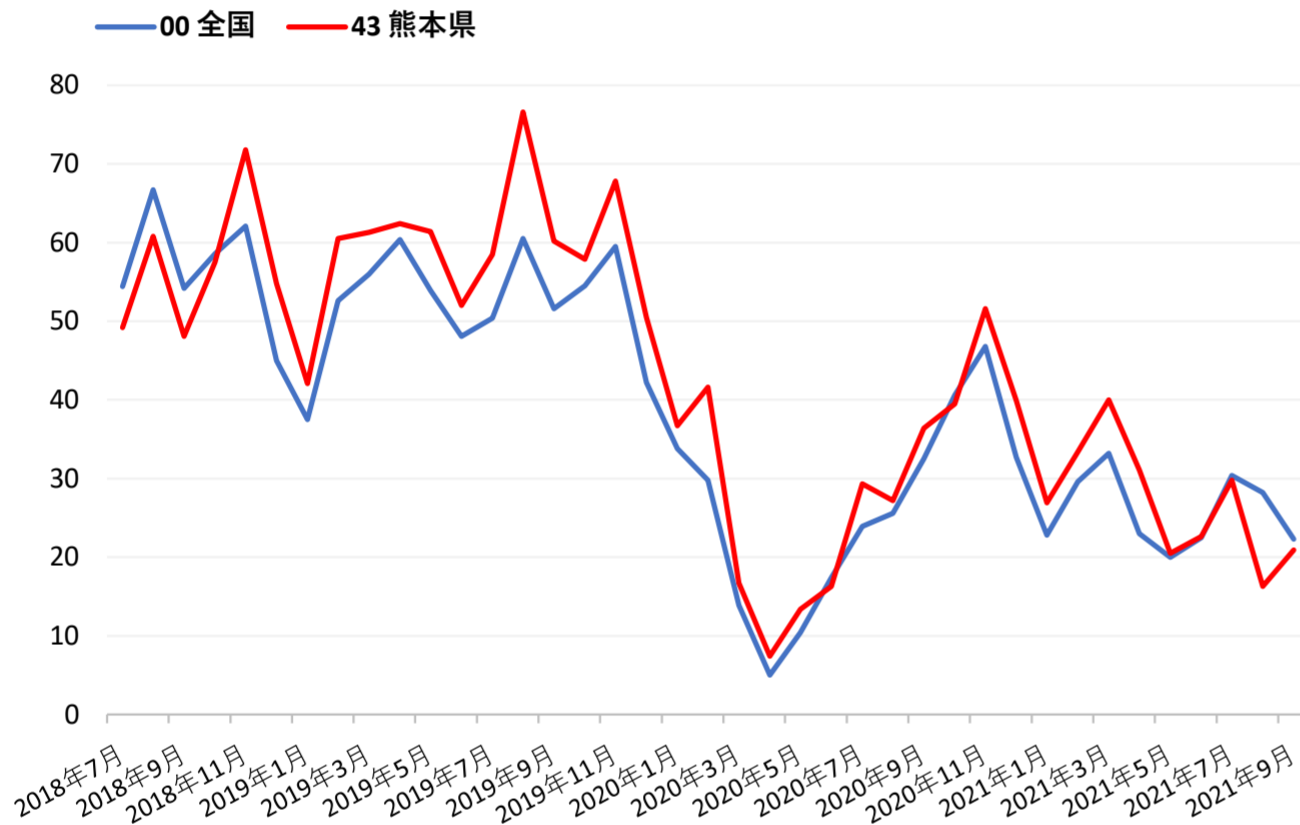
今後12月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は68.0%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は11.2%となっている。新型コロナウイルスの感染者数減少により緊急事態宣言等の解除・ワクチン接種率の増加、観光シーズンの到来により人の動きが大きくなるとの回答が多かった。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
ワクチン接種も進み、10月からまん延防止が解除され、熊本再発見の旅も再開されることから、人流が戻り消費活動が活発になることが期待できるため。(行政・協会)
- やや良くなる
秋の行楽シーズン、年末の各種イベント等の影響で人の流れは活発化すると思われる。(交通・代理店)
感染者の減少傾向、ワクチンの接種率の増加に伴い、来客数は徐々に戻ると予測しているため。(飲食・物販)
ワクチン接種率向上、県と市の助成事業再開、国の施策(ワクチン接種証明など)による経済活動の喚起。(宿泊施設)
- 不変
一度、宣言が解除されるが、年末にかけ人流が増加し再宣言の可能性もあるため。(行政・協会)
- やや悪くなる
コロナ感染拡大による旅行中止。(交通・代理店)
- 悪くなる
キャンペーンに参加するには感染対策が必要であるため宴会を受けることができない。もとより宴会需要がない。

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別



2021年7月における熊本県の宿泊稼働指数は29.8、8月は16.3、9月は20.9となった。8月の前年差はマイナス10.9pt、9月はマイナス15.5ptと、前年と比べても低い水準となっている。2020年4月～5月の初の緊急事態宣言発出時よりは高い水準となっているものの、8月の宿泊稼働指数は2020年6月と同水準で、過去1年の間で最も低くなった。

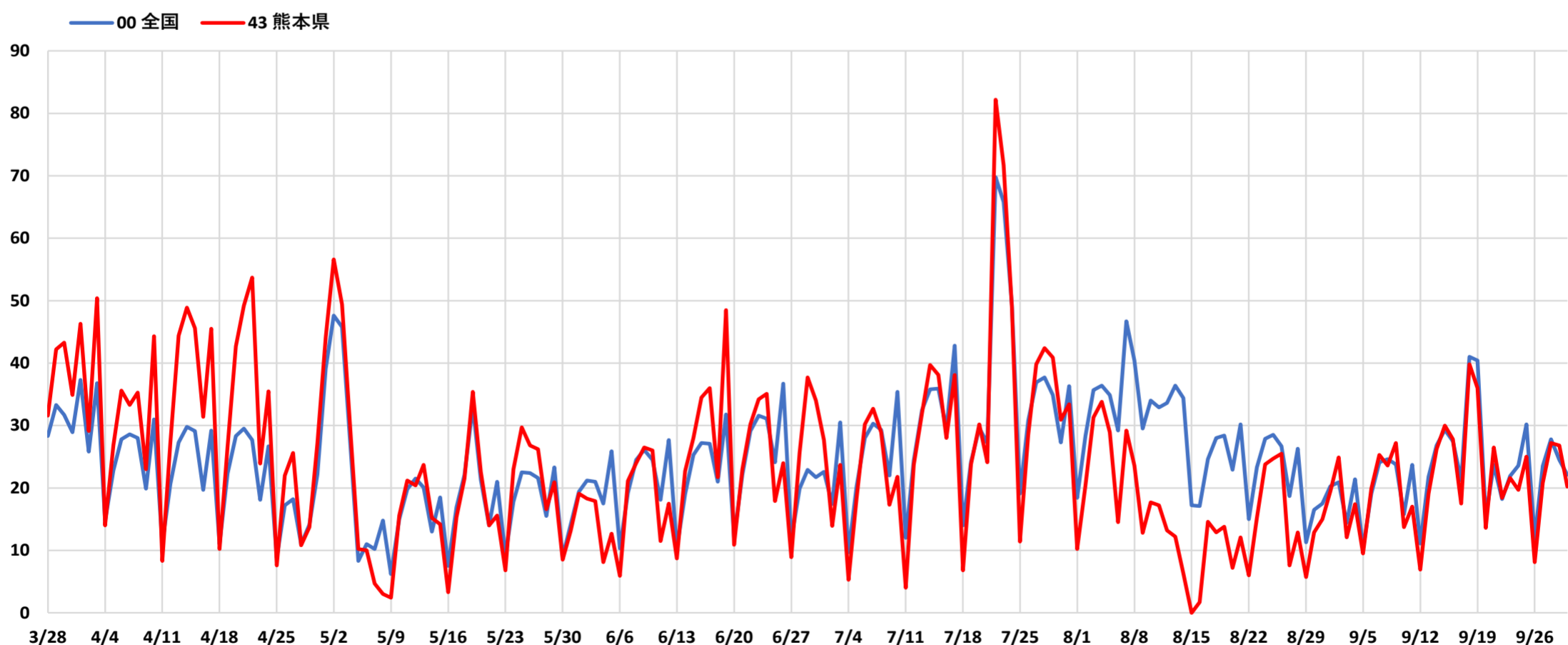
新型コロナウイルスの第5波による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響、また8月の大雨の影響で厳しい値となった。

※宿泊稼働指数とは

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。

②日次別



宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、5道府県(北海道、愛知、京都、兵庫、福岡)のまん延防止等重点措置が7/11までで解除され第4波が落ち着く中、7/22～25の4連休にかけ宿泊稼働は改善した。特に前半の7/22には2021年で最も高い82.2ptとなった。しかし4連休後は再度落ち込み、特に8月は新型コロナウイルスの第5波に伴う全国各地での緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令に加え、8月中旬の台風や大雨により大幅に下落し、8/15には指数は0ptとなった。9月も引き続き低調ではあるものの、新型コロナウイルス感染症新規感染者数の減少に伴い、下旬にかけて緩やかに改善してきている。